

「身体症状を伴う精神疾患」について

身体症状が主に訴えられる病気の中にも、こころの病気が紛れていることがあります。今回はその中で、代表的なものをいくつか挙げてみたいと思います。

心身症

心身症とは、心理社会的な要因や精神的なストレスが原因となって発症する身体疾患をいいます。つまり、ストレスによって引き起こされる体の病気で、狭心症、高血圧症、気管支喘息、胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、アトピー性皮膚炎、顎関節症など、様々な身体疾患が心身症に含まれます(ただし、これらの病気では身体的な要因の方が大きい場合があります)。

パニック障害 (不安神経症)

心身症を起こしやすい人は、社会適応が良い一方で、感情の表出が少なく、自分の気持ちを表現できない人(これを失感情症と呼びます)に多いと考えられています。

突然の動悸、過呼吸、手足のシビレなどを伴ったパニック発作で発症します。このまま死んでしまうのではないかとという恐怖感や、発作がまた起こるのではないかという不安感(これを受けて特別の異常がなくても自律神経失調症などと診断されてそのまま通院を続け、却って治療が長期化してしまうことがあります。身体症状が前面に出ていてもうつ病には変わりありませんから、抗うつ薬の投与と精神療法による治療が不可欠になります)。

心気症

予期不安といいますが(を伴います。何度もパニック発作を起こして時には救急外来を受診することさえありますが、体の検査では異常が認められません。症状の激しさに比べて薬が効きやすく、比較的治りやすい病気であることが知られています)。

全身倦怠感、脱力感、異常感覚、めまい、頭痛、胸痛など、様々な身体症状を訴えるものの、実際には体の異常が存在しない

ものを心気症と呼びます。診察を受けた医師から身体的な病気はないと説明されても納得できず、同じ訴えを繰り返して病院を転々とする傾向があります。精神的な不全感や不安感が、身体(の部分)と結びついた形で表現されていると考えられます。体の症状から離れて、こころの問題に目を向けられるかどうか治療にとって重要になります。

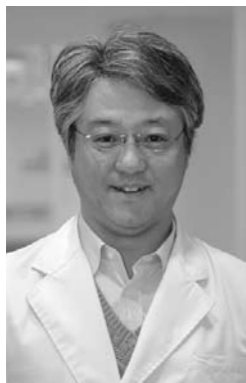
仮面うつ病

うつ病には、抑うつ感、意欲の減退、不安・焦燥感、自責感・希死念慮といった精神症状と、不眠、食欲不振、腹痛、便秘、頭痛、肩こり、痺れなどの身体症状が認められます。このうち、身体症状が前面に出て精神症状が目立たないものを、精神症状がマスクされているという意味で仮面うつ病と呼びます。うつ病の方は、「患者」という役割を上手くこなせてしまうからでしょうか。内科などで検査を



以上のように、体の症状の背後にはこころの問題が隠されていることがあります。体の治療を受けてもなかなか症状が改善しない場合には、精神的な治療が必要になることもあります。総合病院では身体科と協力して治療を行いますから、心当たりのある方は、安心して精神科にも受診されることをお勧めします。

今月の先生



岐阜市民病院精神科
柴田明彦 先生
○専門分野
青年期精神病理
○役職
デイケアセンター長
精神科副部長
○主な資格、認定
精神保健指定医
日本総合病院精神医学会専門医
日本精神神経学会認定医
○卒業年、主な職歴
昭和61年岐阜大学医学部卒
平成14年4月～岐阜市民病院